

2018 全日本スーパーフォーミュラ選手権 第4戦  
 富士スピードウェイ  
 2018年7月7日

**予選** 観客: 10,600人 天候: 曇り時々雨

1ヶ月以上のインターバルを開けて開催される全日本スーパーフォーミュラ選手権 第4戦、富士大会。週末にかけて不安定な天候が予想され、予選セッションは、降ったり止んだりする雨に対してタイヤチョイス判断のタイミングが難しい展開となった。Q3 まで進出した中嶋一貴は、セッション終盤までトップだったが、コンディションの急変化によって4番手に順位を下げてしまった。ジェームス・ロシターは、Q2 敗退。9番手グリッドから決勝に臨む。



- 予選開始時のコンディションは、小雨は降るものの、コースはドライ。各車スリックタイヤでコースイン。第3セクターで雨が少し強くなっているという情報があったが、2セットのスリックタイヤでアタック。ロシター11番手、中嶋12番手でQ2に進出。
- 雨は一旦止んだが、コースはハーフウェット。2台は、レインタイヤをセットしてコースインしたが、1周してピットインしスリックタイヤに交換。僅か7分間のセッションの終盤まで2台がQ3進出圏内にいたが、最後にロシターが100分の39秒及ばず敗退。中嶋は、Q3に進出。
- 再び雨が降り始めたQ3。中嶋は、唯一、レインタイヤを装着してどんどんとウェットコンディションになる路面で快走。ポールポジション獲得は確実と思われた。しかし、セッションの終盤に雨が止み、中嶋のレインタイヤはヒートアップ。さらなるタイムアップができずに4番手に終わった。

Driver	Car No.	Q1	Q2	Q3
中嶋一貴	36	P12 1:24.753	P5 1:24.046	P4 1:38.840
ジェームス・ロシター	37	P11 1:24.732	P9 1:24.397	

  

天候	曇り ときどき 雨 / ハーフウェット → ウェット	
気温/路面温度	気温 25-25度C	路面 27-26度C

**中嶋一貴 (36号車ドライバー)**



「慌たしい予選でした。なんとかQ3まで進出できて、特に難しく考えたわけではなく、レインタイヤでコースイン。そうしたら雨が強まってきてラッキーだなと思ったのですが、ベストタイムを出したラップに少しミスをしてしまって、それが無ければ、もう少し良いタイムが出ていましたね。セッションの終盤に雨がやんできたときには、もう、自分のレインタイヤは、ヒートアップしてしまっていて、タイムアップは望めない状況でした。決勝は、ドライでできることを期待しています」

**ジェームス・ロシター (37号車ドライバー)**



「まるで、宝くじを当てるような難しい予選だった。刻々と変わるコンディションにマシンのセットアップが合っていたかどうか。運が良かったか、悪かったのか。Q2を僅かなタイム差で突破できなかった。もし、Q3に進出できていたのなら、ポールポジション争いだって可能だったと思う。決勝は、ドライになるかな。追いつけて優勝を狙いたい」

**小枝 正樹 (36号車エンジニア)**



「特に悩んだ末の選択ではなく、レインタイヤでダメだったら直ぐにピットインして、スリックでアタックをしようと判断してコースインしてもらったら、雨が降ってきたので、これはいけると思ったのですが、なんと、再びコンディションが変化して最後はタイム更新できなくて抜かれてしまいました。ぬか喜びでした。明日のコンディションはどうなるかわかりませんね。決勝レース前のフリー走行でのセットアップの仕上がり具合が勝負ですね」

**東條 力 (37号車エンジニア)**



「大変な予選でしたね。Q3へ進出できていたら、また違った結果だったでしょうが、その時々コンディションでどうなったかはわかりませんね。明日の決勝はドライになったとしても、この週末、スリックタイヤでまともに走っていないので、明日の朝のフリー走行でチェック、セットアップを仕上げて決勝に臨みます」

**館 信秀 (チーム監督)**



「まるでサッカーのW杯、日本とベルギー戦を見ているかのような感じだった。Q3をレインタイヤでコースインした一貴。次第に雨が強まって、完全にもらったと思っていたら、最後の最後にやられてしまった。めまぐるしく変わるコンディションの中、とても難しい予選だった。ジェームスがQ3に残っていたら、ふた通りの作戦も取れた。悔しい思いはあるけれど、ニック(キャンディ)のポール獲得におめでとうの言葉を送る」



2018 全日本スーパーフォーミュラ選手権 第4戦  
 富士スピードウェイ  
 2018年7月8日

**決勝** 観客: 20,800人 天候: 曇り時々晴れ

全日本スーパーフォーミュラ選手権 第4戦の決勝において、VANTELIN TEAM TOM'S の36号車を駆る中嶋一貴は、5位。37号車のジェームス・ロシターは、終盤に9位を走行していたが他車と接触、コース上にストップしてレースを終えた。



- 中嶋はソフトタイヤ。ロシターはミディアムタイヤを装着してスタートを切った。
- 中嶋は、スタート直後、3位争いの集団の中で順位を落としてしまい、5位でオープニングラップを終えた。
- ロシターは、アンダーステアに苦しんで12位まで後退。その後、11周してピットインをして、ソフトタイヤに交換。9位まで順位を挽回。
- 中嶋は、42周してピットイン。ミディアムタイヤに交換。5位でレースに復帰。その順位のままゴールして4ポイントを獲得した。
- ロシターは、最終ラップに他車と接触。その際に他車を押し出してしまったと判断され、結果に60秒加算のペナルティーとペナルティポイント1を科された。

Driver	Car No.	Position/ Best Lap Time
中嶋一貴	36	P5 1:26.903
ジェームス・ロシター	37	P19 1:26.353

天候	晴れ/ドライ	
気温/路面温度	気温 30-31度C	路面 40-39度C

**中嶋一貴 (36号車ドライバー)**

「スタート後のポジション取りがあまり良くなくて、うまく前には出られなかった。100Rを回ってヘアピンに進入した時、背後からの気配を感じてはいたのですが、一気に山本選手がきて、パスされてしまいました。その後、何とか頑張ったのですが、前を走っているマシンたちのペースにはついていけなかった。ウエットもドライもファインセットではありませんでした。ポイントは取れましたけれど、苦しいレースでした」

**ジェームス・ロシター (37号車ドライバー)**

「スタート自体は悪くはなかったと思うけれど、序盤からなぜか、ものすごくアンダーステアが強くて順位を落としてしまった。それがなければ、作戦は良かったので早めのピットインを行なって順位をもっと上げて、ポイントゲットは確実にできていたのではないかなと思う」

**小枝 正樹 (36号車エンジニア)**

「決勝のドライセッティングは、ソフトタイヤもミディアムタイヤも、前でゴールした4台のペースには追いつけなかったですね。1周目のヘアピンコーナー手前で順位を落としてしまった後は苦しい展開、苦しい走行を強いてしまいました。それでも、前戦から連続してポイントゲットできたのは良かったです、それが精一杯だった今週末でした」

**東條 力 (37号車エンジニア)**

「中段からのスタートでしたが、作戦としては、うまくゆけば表彰台も獲得できたはずだったのですが、スタートしてから序盤の数周で4ポジションくらい下げてしまって、自分のスタートポジションへ戻すだけで終わってしまいました。なんとかポイントゲット、それ以上のバトルを展開したいです。最後は、山下健太選手と接触。再び、残念な結果となってしまいました」

**館 信秀 (チーム監督)**

「一貴が今回も気を吐いてくれて、ポイントゲットしてくれはしたが、パフォーマンスとしては、前でフィニッシュしたマシン達より明らかにペースが遅かった。厳しいレースを強いてしまった。今後の戦いのためにエンジニアリングの面でも頑張らないといけない。ジェームスは、良いとこなしだった。どうしたのだろう。そして最後の最後で接触してしまうというのもまずい結果だった」

※次戦は、8月18-19日に、栃木県のツインリンクもてぎにて、シリーズ第5戦が開催されます。